

【樹木の部屋】

アセビ (ツツジ科アセビ属 *Pieris japonica*)

和名：アセビ (馬酔木) **別名**：アセボ、アシビ(馬酔木)、バスイボク(馬酔木)

英名：Japanese pieris、Japanese andoromeda

ツツジ目 常緑低木 **原産地**：日本、中国、台湾

花言葉：清純な愛、清純な心、犠牲、献身 **花の色**：白



← 写真-1 アセビ

撮影日：2013年04月07日

撮影場所：銀閣寺(京都市)にて

撮影者：M さん



→ 写真-2 アセビの花

撮影日：2013年04月07日

撮影場所：銀閣寺(京都市)にて

撮影者：M さん



← 写真-3 アセビの新芽

撮影日：2013年04月07日

撮影場所：銀閣寺(京都市)にて

撮影者：M さん



← 写真-4 アセビの花

撮影日：2017年02月22日

撮影場所：好古園(姫路市)にて

撮影者：M さん



→ 写真-5 アセビ

撮影日：2017年04月01日

撮影場所：海龍王寺(奈良市)にて

撮影者：M さん

写真1～3は、銀閣寺垣に沿って庭園に入り、向月台をグルッと廻りこんだ丘の斜面にミツバツツジと混植されて咲いていました。当日は雨模様でしたが、雨に濡れたアセビもまた、格別。

写真4は、姫路城の西側にある好古園の「流れの平庭」で見かけました。珍しく、赤いアセビです。アケボノアセビと呼ばれる園芸種。よく目にするのは白花ですが…。丁度、その場に居合わせたご婦人が、「アセビのようですが…」と、話かけられ、しばらく雑談。「赤い色もあるのですね」と珍しそうに観賞されていました。

写真5は、奈良市にある海龍王寺を訪れた際、境内に咲いていました。丁度、鳥が飛んできて、花をつつきだしたので、一枚。蜜でも…。

馬酔木の名は、「馬」が葉を食べれば毒に当たり、「酔」うが如くにふらつくようになる「木」という所からだそうです。多くの草食哺乳類は食べるのを避け、食べ残されるため、草食動物の多い地域では、この木が目立って多くなることがあるそうです。奈良公園では、シカが他の木を食べ、この木を食べないため、アセビが相対的に多くなっているそうです。

< ちょっと一言 >

*有毒植物であり、葉を煎じて殺虫剤に利用される。

- ・有毒成分はグラヤノトキシン I (旧名アセボトキシン)、アセボプルプリン、アセボイン、ジテルペン、アンドロメドトキシン。
- ・毒部位は、全株、葉、樹皮、茎、花。
- ・毒症状は、血圧低下、腹痛、下痢、嘔吐、呼吸麻痺、神経麻痺。
- ・近年では、殺虫効果を自然農薬として利用する試みがなされているようです。

*万葉集にも・・・。

「磯の上に生ふるあしびを手折らめど見すべき君が
ありといはなくに 大伯皇女 (巻2・166番)」

*日本にはアセビ (*P. japonica*) とリュウキュウアセビ (*P. japonica* ssp. *koidzumiana*) が自生しています。

アケボノアセビ

(ツツジ科アセビ属 *Pieris japonica* f. *rosea*)

和名 : アケボノアセビ (曙馬酔木)

別名 : ベニバナアセビ (紅花馬酔木) **英名** :

ツツジ目 常緑低木 **原産地** : 日本

花言葉 : **花の色** :

曙馬酔木 : 淡い紅色の花を付ける品種

紅花馬酔木 : 濃い紅色の花を付ける品種